

化学物質の環境リスク初期評価（第14次取りまとめ）の結果について

平成28年1月14日(木)

環境省総合環境政策局環境保健部
環境安全課環境リスク評価室

○環境リスク初期評価（第14次取りまとめ）の結果の概要

(1) 対象物質

第14次取りまとめ（平成27年12月24日公表）においては、健康リスクと生態リスクの双方を対象とした環境リスク初期評価について15物質、生態リスク初期評価について7物質、それぞれ取りまとめた。

(2) 結果

①環境リスク初期評価（健康リスクと生態リスクの双方を対象）

対象とした15物質の環境リスク初期評価の結果を、今後の対応の観点から整理をすると、以下のとおりとなる。

今回の第14次取りまとめにより、これまでに240物質の環境リスク初期評価が取りまとめられたことになる。

		健康リスク初期評価	生態リスク初期評価
A. 詳細な評価を行う候補		【1物質】 1,1-ジクロロエチレン	【1物質】 セレン及びその化合物
B. 関連情報の収集が必要	B1 リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	【2物質】 ブロモジクロロメタン、ヘキサメチレン=ジイソシアネート*	【3物質】 1,1-ジクロロエチレン、 ほう素及びその化合物、 ブロモジクロロメタン*
	B2 リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	【4物質】 3-イソシアナトメチル-3,5,5-トリメチルシクロヘキシル=イソシアネート、ジブロモクロロメタン、セレン及びその化合物、メチル-1,3-フェニレン=ジイソシアネート	【2物質】 N,N-ジシクロヘキシルアミン、 ジブロモクロロメタン
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		【8物質】 アジピン酸、4クロロ-2-メチルフェノール、酢酸2-メトキシエチル**、N,N-ジシクロヘキシルアミン、ジビニルベンゼン、2,4,6-トリクロロフェノール、ブタン-2-オン=オキシム、ほう素及びその化合物**	【6物質】 アジピン酸、4クロロ-2-メチルフェノール、酢酸2-メトキシエチル**、ジビニルベンゼン、2,4,6-トリクロロフェノール、ブタン-2-オン=オキシム

注) 「3-イソシアナトメチル-3,5,5-トリメチルシクロヘキシル=イソシアネート」、「ヘキサメチレン=ジイソシアネート」、「メチル-1,3-フェニレン=ジイソシアネート」については、生態リスク初期評価は実施しなかった。

*ガイドラインに従い算出されたMOEやPEC/PNEC比では「現時点では更なる作業の必要性は低い」となるが、諸データ及び専門的な見地から総合的に判断して、引き続き、関連情報の収集が必要と考えられた物質。

**MOEやPEC/PNEC比が設定できず「リスクの判定はできない」となったが、諸データ及び専門的な見地から総合的に判断して、現時点では更なる作業の必要性は低いと考えられた物質。

②追加的に実施した生態リスク初期評価

対象とした7物質の生態リスク初期評価結果を、今後の対応の観点から整理すると、以下のとおりとなる。

今回の第14次取りまとめにより、上記環境リスク初期評価の240物質に加え、これまでに96物質の生態リスク初期評価が取りまとめられたことになる。

A. 詳細な評価を行う候補		【2物質】 N,N-ジメチルオクタデシルアミン、N,N-ジメチルドデシルアミン
B. 関連情報の収集が必要	B1 リスクはAより低いと考えられるが、引き続き、関連情報の収集が必要	【0物質】
	B2 リスクの判定はできないが、総合的に考えて、関連情報の収集が必要	【1物質】 2,5-ジクロロアニリン
C. 現時点では更なる作業の必要性は低い		【4物質】 オクタクロロスチレン、サリチルアルデヒド、2,4-ジクロロアニリン、2,4,5-トリクロロフェノール

(3)留意事項

今回の結果から直ちに環境リスクの抑制が必要であると判断されるわけではない。